

理事会報告

日本菌学会 2017 年度第 2 回理事会 議事録

日時：2017 年 8 月 28 日（月）12：30～17：00

場所：東北大学 川内キャンパス A 棟 A303 号室

出席者（順不同，敬省略）：会長 山岡裕一，副会長 矢口貴志，理事 太田祐子（企画・普及），岡根 泉（庶務），清水公德（庶務），玉井 裕（日本菌学会会報編集責任者），出川洋介（国際集会），中島千晴（会計），名部みち代（国内集会），服部 力（編集委員長），山田明義（国内集会），幹事 遠藤直樹（国内集会），伴さやか（庶務），本橋慶一（会計），喜友名朝彦（庶務）。欠席（委任状提出）：田中千尋（企画・普及）

オブザーバー：齋藤雅典（大会会長，大会実行委員），松倉君子（大会実行委員）

会議成立の確認：理事会の開催に先立ち，会長，副会長，理事 10 名の出席（委任状含む）により，理事会が成立したことを確認した。また，オブザーバーとして各幹事および齋藤大会会長ならびに松倉大会実行委員の参加を承認した。

大会会長挨拶：理事会の開催にあたり，齋藤大会会長より挨拶があった。

会長挨拶：理事会の開催にあたり，山岡会長より挨拶があった。

報告事項

1. 庶務（岡根・清水理事）

1) **会員動向**：2017 年 7 月現在，正会員 619 名（国内 580，国外 39），学生会員 139 名（国内 126・国外 13），英文誌購読会員 33 名（全て国外），終身会員 141 名（全て国内），名誉会員 25 名（国内 21，国外 4），功勞会員 2 名，賛助会員 15 社，会員総数 974 名。

2) **メール会議の開催状況**：2017 年 4 月から 8 月にかけて，8 回のメール会議を行った。

第 1 回（4 月 25～27 日）AMC 渡航支援の案内について（原案承認）

第 2 回（4 月 27～29 日）オープンアクセス論文の承認（原案承認）

第 3 回（5 月 22～23 日）一般社団法人日本菌学会授賞規則の改訂に関して（原案承認）

第 4 回（7 月 7～10 日）菌学会のロゴマークについて（原案承認）

第 5 回（7 月 18～21 日）会員 ML の利用ならびに HP 掲載情報に関する取り決めについて（理事会不成立）

第 6 回（7 月 26～28 日）合同大会関係イベントのアナウンスについて（原案承認）

第 7 回（7 月 28 日～8 月 1 日）AMC 渡航支援者の選考について（博士後期課程の 4 名を優先して採択し，

一人あたり 5 万円を補助する）

第 8 回（8 月 10～11 日）高校生ポスター賞副賞の提供について（原案承認）

3) **法人化関係**：平成 29 年 8 月 9 日をもって任意団体から法人への財産移行が完了したことが報告された。

2. 国内集会（山田・名部理事）

1) 2017 年度日本菌学会菌類観察会（銚子フォーレ）準備状況について，以下の通り報告された。

観察地：銚子市君ヶ浜しおさい公園・東庄町千葉県立東庄県民の森

期間：2017 年 9 月 22 日（金）～24 日（日）

募集人数：80 名。7 月 31 日申し込み受け付けを終了（85 名）。

3. 国際集会（出川理事）

1) 日本菌学会若手会員に対する AMC2017 参加経費支援について，博士後期課程に在籍する 4 名の学生へ支援することが承認された（第 7 回メール会議による）ことが報告された。

2) 第 9 回国際変形菌類分類生態学会議（ICSEM9）が，2017 年 8 月 18 日～22 日，和歌山県田辺市にて開催されたことが報告された。日本変形菌研究会主催，田辺市・南方熊楠顕彰会共催として実施され，参加人数は 99 名（国内 67 名，海外 32 名）。

3) AMC2017（ベトナム）における日本菌学会主催シンポジウムとして，外生菌根に関する話題（コンペーパー：山田明義氏，山中高史氏）を開催することが報告された。

4) 中華民国真菌學會との合同企画を，同真菌學會の年次大会開催に合わせて 2017 年 10 月 21 日に台湾大学において開催することが報告された。植物病原菌類に関する話題のシンポジウムの演者として，青木孝之氏と中馬いづみ氏の 2 名に講演依頼を行った。

4. 企画・普及（太田・田中理事）

1) メーリングリストの誤送信について，発生原因と再発防止策について説明があった。

2) 環境微生物系学会合同大会高校生ポスター副賞提供について，「驚きの菌ワールド」4 冊を高校生ポスター賞の副賞として提供することが承認された（第 8 回メール会議による）ことが報告された。

3) 第 9 回国際変形菌類分類生態学会議（ICSEM9）で，Mycoscience，チラシ配布，見本配布，菌学会紹介ポスター掲示，菌学会パンフ配布をおこなったことが報告された。

4) 菌学会ロゴについて，アウトラインデータの使用が

- 5) 承認された（第4回メール会議による）ことが報告された。
- 6) 大学生のための菌類学入門（8月5日，日本菌学会・国立科学博物館共催，講師：細矢剛氏，於：国立科学博物館自然教育園，参加者48名）の開催について報告された。
- 7) 中高生のための菌類講座「植物病原菌を観察しよう」（8月21日，菌学会主催・日本大学後援，講師：佐藤豊三氏，於：日本大学生物資源科学部，参加者16名）の開催について報告された。
- 8) HP移行は順調に行われたこと，一時的にウェブサイト構築アプリケーション（BiND5）の不具合でウェブサイトへの更新ができなくなったことが報告された。
- 9) ニュースレターの発行・編集作業は予定通り進行していることが報告された。

5. 編集委員会（服部・玉井理事）

- 1) 学会誌の発行状況について
Mycoscience：58巻（2017）は約500頁（暫定476頁）になる見込みである（契約は420頁）こと，2016年より受理論文数が増加し，既に58巻掲載上限頁（462頁）を超過し，概ね2号分のストックを確保しており，掲載待ち論文数は増加傾向にあることが報告された。日本菌学会会報：58巻2号まで掲載予定内容が決定し，順調に推移していること，53(1)～56(2)の掲載論文をJ-STAGEから公開するための搭載作業を開始したことが報告された。
- 2) Mycoscienceの投稿状況について，2年連続で却下率は55%まで減少したことが報告された。
- 3) Mycoscienceのインパクトファクター（IF）の推移について，2016年度（IF:1.014）は2015年度（IF:1.165）より低下していることが報告された。
- 4) 編集委員会の開催および編集委員からの意見聴取について，エルゼビア社のデータの透明性と開放性の指針に関わるポリシー見直しについて，打診を受け，編集委員に対して意見聴取を行った結果，同社の打診を受諾することとしたことが報告された。
- 5) 59巻（2018年）から新オフセットスタイル（エルゼビア統一スタイル）の導入を行い，引用文献についてAPAスタイルを導入することが報告された。それに伴い，投稿規定の大幅な改訂が必要になるため，投稿規定検討委員会を設置し，原案作りを進めていることが説明された。現在のページチャージは投稿料として投稿規定に盛り込み対応することが報告された。
- 6) ISAM関連特別号の審査状況について58巻掲載を見送り，59(1)以降での出版を目指すことが報告された。
- 7) Elsevier Editorial System（EES）からEVISEへの移行について今年度中の移行は見送られることが報告された。

6. 会計（本橋幹事）

- 1) 2017年度一般会計・支出の部において，日菌報記事のPDF権利買取は前年度分と合わせて2年分を執行予定で10万円増額となることが説明された。
- 2) 2017年度特別会計の収支について，大きな変動はないと報告された。

以上の各担当者からの報告について審議し，本理事会は各事項を承認した。

審議事項：以下について各担当者から提案され審議された。

1. 庶務（岡根・清水理事）

- 1) 終身会員の活動状況について，書面による確認作業を行うことが提案され，承認された。
- 2) 定款，その他の規則の修正について，修正案を庶務で検討したのち検討委員会に諮問し，次年度総会での審議事項とすることが承認された。

2. 国内集会（山田・名部理事）

- 1) 日本菌学会第62回大会（信州大会）開催案について，資料をもとに説明された。
- 2) 2018年度日本菌学会菌類観察会（島根フォーレ）開催案について，資料をもとに説明された。

3. 国際集会（出川理事）

- 1) 国立科学博物館のシンポジウムへの協力に向けた準備について，資料をもとに説明があった。
- 2) IMC11（2018，プエルトリコ）について，日本菌学会としてIMC11にシンポジウム等の協力予定はないが，ブースを設ける予定であることが説明された。また，学生対象の渡航支援について早急に募集原案を作成することが承認された。

4. 企画・普及（太田・田中理事）

- 1) ホームページ，メーリングリストへの情報発信のルールについて，「会員向けメーリングリスト運用に関する方針（案）」および「日本菌学会ウェブサイト運営編集方針（案）」について説明があり，提案内容で概ね承認された。
- 2) 中高生のための菌学講座修了書発行について提案され，今後，学会として，会長印で出していくことで承認された。

5. 編集委員会（服部・玉井理事）

- 1) エルゼビア社との新規契約について、資料をもとに説明があり、提案通り承認された。
- 2) インパクトファクター（IF）の向上にむけての対策について、資料をもとに説明された
- 3) 招待総説の掲載について、学会賞受賞者総説に加え、奨励賞受賞世代の若手・中堅クラスに対して、多数の引用が期待されるテーマを中心に招待総説執筆の依頼をすることが承認された。
- 4) 出版待ち論文対策について、420 頁を越える頁分を予想し、来年度予算に計上することが承認された。

6. 会計（中島理事）

- 1) AMC2019 について補正予算の検討が必要かどうかについて説明された。

7. その他（山岡会長）

- 1) AMC2019 開催案について、2019 年 10 月に三重県総合文化センター（三重県津市）にて開催する案を中心に、AMC2019 を誘致することについて説明があり、承認された。日本菌学会主催、その他の菌学関係学会共催とし、2019 年度の年次大会と観察会は AMC2019 とは別に開催することが承認された。
- 2) データベース委員会について、現在進行中のデータベース（日本産菌類集覧（勝本リスト）のデジタル化、菌類和名リスト、日本産固有菌類のリスト）について、体制の見直しも含めて、恒常的維持を目指して、学会で継続的な体制を検討することが承認された。
- 3) 日韓合同シンポジウムの状況について、韓国とは相談した上で、10 月中には確定する予定であると説明があった。

以上

会員消息 (2017年8月～2017年11月)

入会 (正会員)

- 原 光二郎 010-0195 秋田市下新城中野字街道
端西 241-438 秋田県立大学生物資源
科学部生物生産科学科
- 松尾 洋孝 108-8641 東京都港区白金 5-9-1 北
里大学 北里生命科学研究所 創薬
資源微生物学寄附講座
- 水上 昌也 252-0302 相模原市南区上鶴間 5-1-21
スカイビル 1F 水上犬猫鳥の病院
- 大木 幹夫 289-2169 千葉県匝瑳市
- 梅田 昌彦 389-2251 長野県飯山市大字旭
4460-1 JA ながの みゆき種菌セン
ター
- 福田 知香 739-0024 広島県東広島市
- 鳥居 正人 188-0002 西東京市緑町 1-1-8 東京
大学大学院農学生命科学研究科附属
演習林 田無演習林

入会 (学生会員)

- 猪瀬 有美 300-0335 茨城県稲敷郡阿見町
- 武内 伸治 060-0819 札幌市北区北 19 条西 12 丁
目 北海道立衛生研究所
- 宮崎 茜里 950-2101 新潟市西区
- 竹山 さわな 603-8085 京都市北区

退会 (正会員)

- 赤石 大輔, 田中 富士男, 島袋 守成, 滝田 睦夫,
三上 愛

退会 (学生会員)

- 于 遥

逝去 (正会員)

- 牧野 精

住所変更 (所属先)

- 川上 新一 642-0001 海南市船尾 370-1 和歌山
県立自然博物館
- 松倉 君子 439-0002 宮城県大崎市
- 木下 晃彦 860-0862 熊本市中央区黒髪 4-11-16
国立研究開発法人 森林研究・整備機
構 森林総合研究所九州支所 森林
微生物管理研究グループ
- 李 新一 125-0062 東京都葛飾区青戸 7-21-14
株式会社衛生微生物研究センター

日本菌学会ニュースレター 2018-1 (1月)
Mycoscience 59 (1) 添付号

日本菌学会ニュースレターは年4号発行され、同学会編集の英文雑誌 Mycoscience (Elsevier 発行) とともに学会会員と賛助会員まで送付されます。発行部数は 1,300部です。また、常時投稿記事を募集しております。ご意見、ご不明の点などございましたら下記の編集委員までご連絡下さい。

日本菌学会ニュースレター編集委員長 (2017-2018 年度)
白水 貴 三重大学大学院生物資源学研究所
shirouzu@bio.mie-u.ac.jp

同編集委員

安藤裕萌 森林総合研究所東北支所
yuhoando@affrc.go.jp

大前宗之 (株)北研
trick.dontokoi.fungi@gmail.com

木下晃彦 森林総合研究所九州支所
rhizopogon0423@gmail.com

谷口雅仁 菌類懇話会
gajin@mctv.ne.jp

広瀬 大 日本大学薬学部
hirose.dai@nihon-u.ac.jp

一般社団法人日本菌学会会長 (2017-2018 年度)
山岡裕一 (筑波大学大学院生命環境科学研究科)
〒305-8572 茨城県つくば市天王台 1-1-1

副会長

矢口貴志 (庶務担当; 千葉大学)

理事

太田祐子 (企画・普及担当; 日本大学)

岡根 泉 (庶務担当; 筑波大学)

清水公徳 (庶務担当; 東京理科大学)

田中千尋 (企画・普及担当; 京都大学)

玉井 裕 (日菌報担当; 北海道大学)

出川洋介 (国際集会担当; 筑波大学)

中島千晴 (会計担当; 三重大学)

名部みち代 (国内集会担当; 菌類懇話会)

服部 力 (編集委員長; 森林総合研究所)

山田明義 (国内集会担当; 信州大学)

日本菌学会ホームページ

<http://www.mycology-jp.org/~msj7/>

速報性の必要なイベント情報の掲載などは学会ホームページ担当 (secretary-general@mycology-jp.org) までお問い合わせ下さい。その他、学会運営等に関しては、上記まで適宜お問い合わせ下さい。

日本菌学会では、随時、会員を募集しております。広い意味での菌類 (地衣、粘菌なども含む) に興味をお持ちの研究者ならびに愛好家の方など、どなたでもご入会いただけます。学会への入会方法は、ホームページをご覧ください。また、賛助会員についても募集しております。

編集後記

2年前より県からの依頼で、栃木県内のレッドリスト (菌類分野) の調査を行っております。昨年は冬虫夏草や地下生菌の専門家が県博物館に就職したこともあり、これまであまり調べられてこなかった、これらの菌類の調査が一気に捗りました。しかし、調査の中で多くの課題も見えてきました。県北部および北西部に位置する日光国立公園には豊かな自然が残存し、多くの菌類がレッドリストに登録されています。一方、街中にある普通の公園や里山環境にもあまり目にする事のない希少な菌類が存在することが分かってきました。国立公園内と比較し、これら街中の菌類は開発の危険に晒されるリスクが高く、早めの保全が望まれます。また、きのこの分類が進んでいないこともリストを作成する上で大きな阻害要因でした。種を選定する上では種概念が明白であるもの、すなわち既知種から選ぶことが望ましいのですが、中には明らかな希少種であるものの未知種であるため、選定から除外した種もあります。これらについては専門家の方々の協力を仰ぎ、順次、報告準備を進める予定です。少数のボランティアに限られた余暇を利用している調査のため限界もあるのですが、少しでも栃木県内の菌類を多くの方々を知っていただく機会になれば望外の喜びです。

(編集委員 大前宗之)

今期も編集委員を務めることになりました日本大学の広瀬です。あまり得意でない仕事ではありますが、出来る限り頑張りますので宜しく御願ひ致します。さて、ご存知の通り今年の干支は戌ですので、イヌに因んだ話を少しだけ。私には15歳の愛犬と2歳の娘がいます。休日に両者の絡み方を観察するのがここ数年の楽しみの一つとなっています。0歳の時から両者は基本的に全く噛み合っていないのですが、言葉というツールを得てからは娘の迷惑な注文や指示、触れ合いに愛犬が適当に受け流すことが一層多くなりました。コンラート・ローレンツ博士の著書「人 イヌにあう」によると、ヒトとイヌという異なる種の間に見られる真の友情は、異なる種の間で理解がむずかしいことを「理解」できる能力をヒトが発揮する場合に可能になるといいます。翻って私と菌との関係をみると娘と愛犬との関係に似た様な点もある気がしてしまいます。生命のつながりも意味する成年、一層謙虚な気持ちで菌と接し、菌の気持ちを少しでも多く理解できる一年にしたいと思っています。2018年が会員の皆様にとって良い年になりますように。

(編集委員 広瀬 大)

日本菌学会賛助会員

(株) 秋山種菌研究所

〒400-0042 甲府市高畑 1-5-13
Tel 055-226-2331 Fax 055-226-2332

(株) キノックス

〒989-3126 仙台市青葉区落合 1-13-33
Tel 022-392-2551 Fax 022-392-2556

合同酒精(株) 酵素医薬品研究所

〒271-0064 松戸市上本郷字仲原 250
Tel 047-362-1158 Fax 047-364-6466

第一三共 RD ノバーレ (株)

〒134-8636 江戸川区北葛西 1-16-13
Tel 03-5696-8301 Fax 03-5696-8302

大鵬薬品工業(株) 研究本部

天然物フロンティア研究所
〒300-2621 つくば市大久保 3
Tel 029-865-4527 Fax 029-886-3043

(株) 千曲化成

〒389-0802 千曲市内川 1101
Tel 026-276-3355 Fax 026-276-6182

(一財) 日本きのこ研究所

〒376-0051 桐生市平井町 8-1
Tel 0277-22-8165 Fax 0277-46-0906

(一財) 日本きのこセンター菌叢研究所

〒689-1125 鳥取市古郡家 211
Tel 0857-51-8111 Fax 0857-53-1986

日本マイクロバイオファーマ(株)

〒438-0078 磐田市中泉 1808
Tel 0538-21-1134 Fax 0538-21-1135

(株) 富士種菌

〒400-0226 南アルプス市有野 499-1
Tel 055-285-3111 Fax 055-285-3114

ホクト(株)

〒381-0008 長野市大字下駒沢 800-8
Tel 026-296-3211 Fax 026-296-1465

(株) 北研

〒321-0222 栃木県下都賀郡壬生町駅東町 7-3
Tel 0282-82-1100 Fax 0282-82-1119

三菱化学フーズ(株)

〒100-8251 千代田区丸の内 1-1-1
パレスビル
Tel 03-5403-9154 Fax 03-5403-9132

森産業(株) 研究開発部

〒376-0051 桐生市平井町 8-1
Tel 0277-22-8168 Fax 0277-40-1557

(株) 雪国まいたけ研究開発室

〒949-6695 南魚沼市余川 89
Tel 025-778-0153 Fax 025-778-1282

(2017年12月現在)

投稿案内 (平成 29 年 5 月 20 日改訂)

日本菌学会ニュースレターは、会員への様々な情報提供と会員相互の交流を図ることを目的に、年 4 回 (1 月, 3 月, 7 月, 9 月) 発行されます。学会運営サイドからの報告や最新情報のアナウンスとともに、会員からの投稿による菌類全般に関する資料、研究レポート、報告、紹介、随想、解説、表紙写真 (線画を含む) などを掲載します。投稿にあたっては、次のことを遵守してご執筆下さい。

1. 原稿はワープロソフト (MS Word, テキストエディタなど) を用い、A4 版用紙を縦長に、上下左右を 2.0 cm 以上空けて、2 段組み、1 行あたり全角 24 字、1 頁 42 行の横書きで作成して下さい。図表・写真についても、可能な限り別の電子ファイル (EPS, TIFF, JPEG, BMP などの画像ファイル、あるいは Adobe Photoshop (PSD), Illustrator (AI)) をご用意下さい。
2. 原稿は、電子メールの添付書類か、または郵送 (CD-ROM) にてお送り下さい。郵送の場合はプリントアウト 1 部も添付して下さい。投稿に際しては、必要事項を記入した投稿票を添付して下さい。電子メール投稿時の標題は、NL-#### (####は投稿者の姓のローマ字表記; 山田なら NL-Yamada) として下さい。電子ファイルが比較的大容量の場合には、送付方法について予めご相談下さい。投稿料は不要です。
3. 原稿作成にあたっての注意点: できるだけ簡潔な文章で作成して下さい。口語的な表現、難しい言い回しや一般的でない漢字、特殊な専門用語は避けて下さい。**アラビア数字および英字は半角に統一して下さい。句点は全角ピリオド「.」、読点は全角カンマ「,」、日本語の文中での括弧は全角「()」で入力して下さい。**いずれの原稿も、体裁や文体の変更、内容の修正、投稿雑誌の変更などについて、編集委員会から指示がなされる場合があります。
4. 資料・研究レポートは原則として刷り上がり 5 頁 (原稿ベースで 10 枚程度) 以内、紹介・随想・解説は刷り上がり 3 頁 (原稿ベースで 6 枚程度) 以内とします。超過頁の可能性がある場合には、予め編集委員長までお問い合わせ下さい。
5. 図表 (写真を含む) は白黒で印刷されますが、ホームページ掲載分 (PDF 版) はカラー対応が可能です。写真の場合には、できるだけカラー版をご用意下さい。図表の枚数は特に制限しませんが、本文と図表を合わせて制限頁内に収まるようご調整下さい。原稿の右欄外に、図表の挿入位置を示して下さい。また、誌面の都合ですべての図表を掲載できない場合があります。
6. 資料・研究レポートは幾つかの節に分け、太字の小見出しをつけて下さい。菌のリストを含む原稿の場合、原稿に使用した標本は博物館等に寄託して下さい。ま

た根拠にした図鑑名を示して下さい。引用文献は最小限に留め、例に従って記述して下さい。

7. 和名は学会推奨和名を使用して下さい。また、新和名を提唱する場合は、データベース委員会の提言・勧告 (日菌報 49:99-101, 2008) を参照して下さい。
8. 編集委員会による編集・校正後、著者校正をお願いします。受け取り後、48 時間以内に校正しご返送下さい。原稿を郵送にて投稿いただいた場合、CD-ROM 等は印刷完了後に返却します。別刷りは原則的に受け付けておりませんが、ご希望の方は編集委員までお問い合わせ下さい。
9. 支部、談話会、同好会などの会合、研修会、観察会の開催予定、各地の博物館などで開催される展示会などの情報も随時受け付けます。ただし、各号発行日の 1 ヶ月前までに到着するようご注意ください。
10. その他詳細は、日本菌学会会報の投稿規定、投稿細則に準じます。

引用文献の表記例 (ローマ字アルファベット順)

- Breitenbach J, Kränzlin F (eds) (1984) *Fungi of Switzerland. Vol. 1 Ascomycetes (English edn.)*. Luzern
本郷次雄 監修、幼菌の会 編 (2001) カラー版きのこ図鑑. 家の光協会, 東京
今関六也・本郷次雄 編 (1987) 原色日本新菌類図鑑 (II). 保育社, 大阪
今関六也・大谷吉雄・本郷次雄 編 (1988) 日本のきのこ. 山溪カラー名鑑. 山と溪谷社, 東京
環境庁 編 (2000) 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブック-9 植物 II (維管束植物以外). 自然環境研究センター, 東京
Largent DL (1986) How to identify mushrooms to genus I: Macroscopic features. Mad River Press, Eureka
Ogawa Y, Hayashi S, Degawa Y, Yaguchi Y (2001) *Ramicandelaber*, a new genus of the Kickxellales, Zygomycetes. *Mycoscience* 42:193-199
佐藤大樹 (2003) スピッツベルゲン島滞在記 (第 7 回 国際菌学会フォーレイ). 日本菌学会ニュースレター 2003-1:7-13
杉山純多・岡田元 (2001) 証拠 (voucher) となる標本・培養菌株の役割と寄託の重要性. 日本菌学会会報 42:53-56

原稿の送付先

日本菌学会ニュースレター編集委員長 白水 貴
〒514-8507 三重県津市栗真町屋町 1577

三重大学大学院生物資源学研究所

Tel: 059-231-6978

E-mail: shirouzu@bio.mie-u.ac.jp

日本菌学会ニュースレター投稿票

電子メール投稿の場合は、メール本文または添付書類にて投稿票をお送り下さい。郵送による投稿の場合は、投稿票1部を同封して下さい。

題名：

投稿者名：

連絡先：〒

電話：

ファックス：

電子メール：

投稿区分（○で囲んで下さい）：資料 研究レポート 随想 解説 紹介 書評 表紙写真（線画も含む）

その他（

）

その他、要望等：

日本菌学会ニュースレター2018年1号

平成30年（2018年）1月1日

編集者 白水 貴

発行人 山岡 裕一

印刷所 勝美印刷株式会社

〒113-0001 東京都文京区白山 1-13-7

アクア白山ビル5階

Tel. 03-3812-5201（代表）

発行所 一般社団法人 日本菌学会

〒113-0001 東京都文京区白山 1-13-7

アクア白山ビル5階